

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 7 月 18 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	岡田佐和子

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本モンキーセンター
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物園・博物館実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 7 月 8 日 ~ 平成 29 年 7 月 10 日 (3 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
公益財団法人日本モンキーセンター 伊谷原一 (JMC 園長、WRC 教授)、大淵希郷 (JMC キュレーター、WRC 特定助教)
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
愛知県犬山市にある日本モンキーセンター (JMC) にて行われた動物園・博物館実習に参加したため、以下に報告する。
日程 8 日 午前：園長によるレクチャー 午後：園内見学、標本実習 9 日 午前：教育・科学コミュニケーション実習 午後：飼育実習 10 日 午前：エンリッチメント実習 午後：博物館概論、獣医実習、JMC 研究活動紹介
●1 日目 (7 月 8 日) 伊谷園長から日本モンキーセンターの歴史や霊長類学の歩みについてのレクチャーを受けた。日本モンキーセンターは 60 種 900 頭ものサル類を飼育しており、日本で唯一登録博物館として活動している。飼育や教育活動、経営の課題など様々面から JMC を知ることができた。 午後からは園内の飼育施設を一通り見学した。幼い頃から何度も JMC を訪れているが、今回改めてゆっくりと見学し、飼育方法や展示物が以前よりも来園者に楽しんでもらえるよう改善されていたと感じた。標本実習では、動物園は博物館としての役割をもち標本や飼育記録が資料として保存・活用されていることを教えて頂いた。また、実際に標本を体の部位ごとに分類し個体番号を記入し標本室へ納める流れを体験した。大きな骨格は判別することができたが、指や尻尾など細かな部分は見分けることが非常に難しく、キュレーターの方の知識と経験値の高さに驚いた。親知らずの有無や骨の密度の違いから年齢が予測できる点が面白かった。
●2 日目 (7 月 9 日) 午前中は科学コミュニケーションに関するレクチャーを受けた後、園内で実習を行った。私はこのレクチャーを受け科学コミュニケーターという役職があることを初めて知った。科学コミュニケーターは企業や研究機関と消費者とを繋ぐ役目であり、開発された技術を手早く社会へ発信し、そして利点や改善点をお客さんから自然に聞き出す力が必要であると思った。実習では、来園者の会話の聞き取りや様子を観察した。親は子どもに積極的に話しかけ動物に注目するよう促している様子が多く観られた。また、エサやりガイドに興味をもつ親子が多く、ガイドや実演の注目の高さを実感することができた。 午後は、実習生はペアごとに各エリアに分かれ飼育実習を行った。私はマダガスカルサルを担当し、主にワオキツネザルを飼育している Wao ランドで活動した。この日は園内全てのエリアへ翌日のエサを配達する担当であったため、エリアごとに決められた量の野菜と果実を計り分け、運ぶ作業を体験した。その後、Wao ランドでワオキツネザルの特徴や生活環について教えて頂いた。子育てのやり方や性格など個々に特徴があり見比べながら観察を楽しんだ。Wao ランドは来園者が触れる距離までワオキツネザルが近づく。

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

開放的な飼育施設であり人気も高い。安全に楽しんでもらえるよう声掛けをしたり、ワオキツネザルについて紹介したりなど、スタッフとしての振舞い方を学ぶことができた。

### ●3日目(7月10日)

午前中は、エンリッチメントについてレクチャーを受けた後、実習を行った。動物園は調査研究・保護と保全・教育・資料収集・福祉の5つの役割をもつ。環境エンリッチメントは「福祉」に相当し、動物の身体的・心身的幸福を実現するための方策であると学んだ。Waoランドではブラーボー(ロープで吊り下げた幹に葉の付いた枝を挿しワオキツネザルが上って葉を食べる装置)を環境エンリッチメントの一環として設置している。実習ではワオキツネザルの好物であるサルスベリ木からの枝切り、ブラーボーを完成させた。装置を作っている段階からワオキツネザルが群がり興味を示しており、ブラーボーは彼らにとって採食と遊びを兼ね備えた非常に機能的な良い物であることを体感することができた。悪天候のため実施できなかった計画があり心の残りではあったが、普段とは違った視点から飼育について考えることができた良い機会であった。

午後の獣医学実習では、初めに麻酔に関する歴史と現状を教えて頂いた。その後、足を負傷したワオキツネザルの治療を見学した。麻酔や治療薬だけでなく、リハビリ用の電流装置までもヒトと同様の物が使われていることに驚いた。博物館概論とJMCの取り組みについてのレクチャーでは動物園が博物館として機能している一例として、JMCの活動について知ることができた。JMCは児童や学生への教育はもちろん、教職員に対しても動物園を利用してもらえるような教育プログラムを設けており、教育現場とのつながりを大切に考えていることが伝わってきた。



環境エンリッチメント実習で作製したブラーボー



ワオキツネザルの治療の様子

### 6. その他 (特記事項など)

実習に際しまして、ご指導くださいました皆様にお礼申し上げます。また本実習はPWSの支援により行われました。ありがとうございました。